



インストールマニュアル(参考資料)

AdRem NetCrunch 10

NetCrunch は AdRem Software が開発し所有する監視ソフトウェアである。
株式会社情報工房は日本における総販売代理店である。

©2020 Johokobo, Inc.

1. ADREM NETCRUNCH 10 – プログラム説明	1
1.1 プログラムエディション	1
1.2 プログラム構成	1
・ AdRem NetCrunch サーバー	1
・ AdRem NetCrunch コンソール	1
・ AdRem NetCrunch コネクションブローカー	1
・ リモートプローブ	2
1.3 インストーラー構成	2
・ NC10ServerJP.exe	2
・ NC10ConsoleJP.exe	2
・ NC10RemoteProbe.exe	2
1.4 ライセンス構成	3
2. ADREM NETCRUNCH 10 – 必要システム要件	6
2.1 NETCRUNCH 10 サーバー	6
2.2 NETCRUNCH 10 サーバーのサポート OS	6
2.3 NETCRUNCH 10 コンソール	6
2.4 NETCRUNCH 10 コンソールのサポート OS	7
2.5 NETCRUNCH 10 WEB アクセス	7
2.6 NETCRUNCH 10 リモートプローブのサポート OS	7
3. ADREM NETCRUNCH 10 のインストール	8
3.1 イントロダクション	8
3.2 インストールファイルのダウンロード	8
3.3 NETCRUNCH サーバープログラムのインストール	8
3.4 NETCRUNCH コンソールプログラムのインストール	9
3.5 NETCRUNCH リモートプローブのインストール	9
4. ライセンスについて	11
4.1 ライセンスのインストール	11
4.2 ライセンスの非アクティブ化	11
4.3 ライセンスの更新	12
5. ADREM NETCRUNCH 9 から 10 へのアップグレード	13
5.1 イントロダクション	13
5.2 アップグレードの手順	14
5.3 NETCRUNCH 10 データ引き継ぎ項目	17
6. ADREM NETCRUNCH 10 のマイナーバージョンアップ	19
6.1 イントロダクション	19
6.2 マイナーバージョンアップの手順	19
7. その他	21

7.1	仮想マシン上へのインストールの注意	21
7.2	ADMIN のパスワードのリセット.....	22
7.3	評価版について.....	22
8.	ADREM SOFTWARE 使用許諾.....	23

1. AdRem NetCrunch 10 – プログラム説明

1.1 プログラムエディション

本資料では、AdRem NetCrunch バージョン 10.9.3.5027 日本語版(以下 10)について記載しております。

1.2 プログラム構成

AdRem NetCrunch 10 は次のプログラムコンポーネントによって構成されております。

・ AdRem NetCrunch サーバー

ネットワーク監視の機能を提供します。AdRem NetCrunch コンソール、AdRem NetCrunch Web サーバー、AdRem NetCrunch コネクションブローカーと作成されたネットワークアトラスの全てのデータを保存するデータベースを含みます。このコンポーネントは、Windows オペレーティングシステム(詳細はシステム要件をご参照ください)が動作しているマシン上にインストールすることができます。

NetCrunch サーバーはリモートから Web アクセス(Web ブラウザ経由でのアクセス)、または NetCrunch コンソールを用いて接続することができます。接続には、NetCrunch サーバーに設定されている各ユーザーの資格情報を使用して接続します。

・ AdRem NetCrunch コンソール

ネットワーク監視に関係する全てのタスクを管理するためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを提供します。NetCrunch コンソールと NetCrunch コネクションブローカーは NetCrunch サーバーコンポーネントから分割されたインストーラーが提供されます。そのため、Windows オペレーティングシステムが動作している複数のマシン上に NetCrunch コンソールをインストールすることができます。また、ユーザーがライセンスを複数購入している場合、複数の Windows サーバーに NetCrunch サーバーをインストールすることができ、1 台のコンソールから複数の NetCrunch サーバーに接続することができます。この場合、それぞれの NetCrunch サーバーからのイベント通知受信を独立して接続することができます。NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールの間の接続には NetCrunch コネクションブローカーが使用されます。

・ AdRem NetCrunch コネクションブローカー

NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールとの間に接続を確立します。NetCrunch コネクションブローカーは、NetCrunch コンソールのインストールとともにインストールされます。NetCrunch コネクションブローカーは次のタスクを提供します。

- NetCrunch サーバーの資格情報を確認することで、NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールとの間に接続を確立します。
- 接続している全ての NetCrunch サーバーからのデスクトップ通知ウィンドウの表示を NetCrunch コンソールが動作しているマシン上に表示します。
- NetCrunch サーバーと資格情報のリストを管理します。

・ リモートプローブ

デスクトップの Windows マシンにインストール可能なエージェントソフトウェアです。リモートプローブを Windows マシンにインストールし、NetCrunch サーバーを指定することで、NetCrunch サーバーにリモートプローブが追加されます。NetCrunch サーバーにノードを追加する際、リモートプローブを指定することで、リモートプローブをインストールしたマシンから監視対象へのネットワークサービスの監視が可能です。

リモートプローブのご利用には、別途ライセンスを購入する必要があります。

1.3 インストーラー構成

AdRem NetCrunch 10 は、次のインストーラーで構成されています。

・ **NC10ServerJP.exe**

AdRem NetCrunch サーバーをサーバーマシンにインストールします。NC10ServerJP.exe には、コンソール、コネクションブローカーが含まれます。サーバーマシン上でユーザインターフェースを利用する場合は、このインストーラーのみで全ての機能をインストール可能です。

・ **NC10ConsoleJP.exe**

コンソール、コネクションブローカーをリモートマシンにインストールします。他のサーバーマシンにインストールされた任意の NetCrunch サーバーに接続し、グラフィカルユーザインターフェースによる管理機能を使用することができます。コンソール、コネクションブローカーには監視機能自体は提供されないため、必ず NetCrunch サーバーがインストールされたサーバーマシンに接続して使用します。

なお、NC10ServerJP.exe をインストールしたサーバーマシンには、NC10ConsoleJP.exe のインストールは不要です。

・ **NC10RemoteProbe.exe**

リモートプローブをデスクトップの Windows マシンにインストールします。他のサーバーマシンにインストールされた任意の NetCrunch サーバーに接続し、NetCrunch サーバーから指定されたノードへのネットワークサービスの監視を行います。

なお、NC10ServerJP.exe をインストールしたサーバーマシンには、NC10RemoteProbe.exe のインストールは不要です。また、NetCrunch 日本語版と連携することはできませんが、リモートプローブは英語版のみとなっておりますので、あらかじめご了承ください。

1.4 ライセンス構成

NetCrunch 10 は、レガシーとスイートという本体ライセンスがあります。レガシーに関しては、旧バージョンをご購入いただいているユーザー向けのライセンスです。新規にライセンスをご購入いただく場合は、スイートをご購入いただく必要がございます。また、本体ライセンスのほかに、リモートアクセスとリモートプローブのオプションライセンスがございます。

・ スイート

スイートは、NetCrunch の全機能をご利用いただけるライセンスです。リモートアクセス(10 ユーザー)と、リモートプローブ(1 セッション)が付属しています。

ノード数またはインターフェース数のどちらか数の多い方に依存いたします。ノード数は、アトラスに登録されている IP ノード、リモートセンサーノード、ビジネスステータスノード、ノード監視テンプレート、リモートプローブの総数が対象となります。インターフェース数については、SNMP で ifAdminStatus(loopback を除く)の値となります。

ご購入いただいたライセンスのノード/インターフェース数を超えて監視することはできませんのでご注意ください。ライセンスの購入前に、評価版にてノード数、インターフェース数をご確認いただくことを推奨しております。[ネットワークアトラス]→[概要]タブにて、ノード数、インターフェース数、推奨するライセンスをご確認いただけます。

The screenshot shows the NetCrunch 10 interface. The '概要' (Summary) tab is active, displaying a summary of the network atlas. A red box highlights the 'ノード' (Nodes) and 'インターフェース' (Interfaces) statistics:

ノード	インターフェース	推奨
277	122	325
85.2%	37.5%	ノードライセンス

Below this, the '監視バック' (Monitoring Back) section shows a table of node statistics:

OS	不明	OK	OS	不明	OK
BSD	2	0	Cisco	0	18
Linux	9	6	Mac OS X	1	1
NetCrunch サーバーの監視	0	1	NetCrunch 監査	0	1

・ レガシー

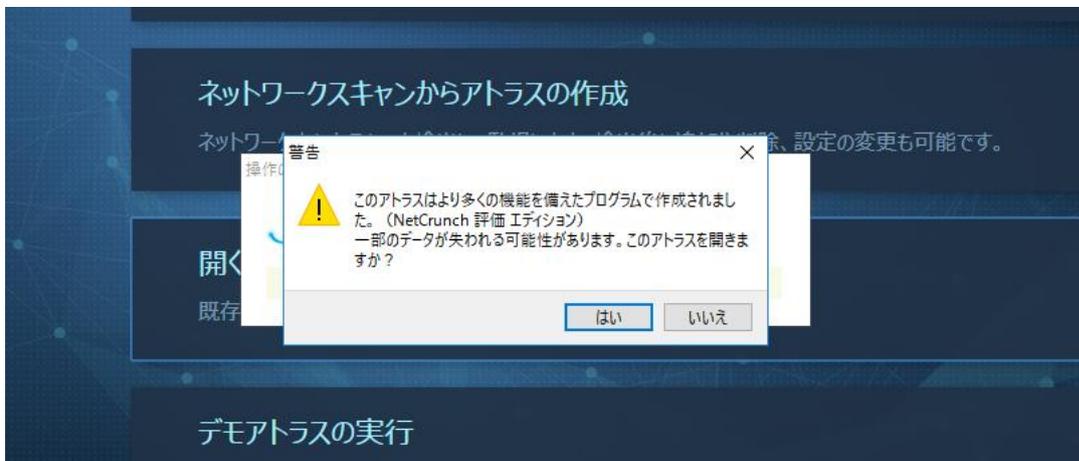
レガシーは、旧バージョンをご利用のユーザー向けに発行されるライセンスです。レガシーには、Premium と Premium XE の 2 種類のライセンスがございます。レガシーでは、一部機能制限がございます。また、今後追加される新機能についても、レガシーでは実装されない予定となっております。

■使用不可機能(バージョン 10.9 時点)

Premium XE	Premium
<ul style="list-style-type: none"> ・監視テンプレート ・組織グループ ・リモートプローブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・監視テンプレート ・組織グループ ・リモートプローブ ・拡張ネットワーク監視 (監視優先度/高速監視) ・IP SLA 監視 ・統合 (Slack など) ・テキストログセンサー ・外部イベント (SNMPトラップの受信) ・物理的セグメントマップの拡張 (VLAN のサポート/STP、CDP の対応)

なお、スイート (NetCrunch 10 の評価版を含む) にてアトラスを作成したのち、NetCrunch にレガシーライセンスを適用した場合、上記の使用不可機能がご利用いただけなくなりますのでご注意ください。アトラスを開く際に以下の警告が表示されます。

「このアトラスはより多くの機能を備えたプログラムで作成されました。一部のデータが失われる可能性があります。」



- ・ リモートアクセス

Web アクセス、リモートマシン上のコンソール、GrafCrunch の使用により、ライセンスを消費します。スイートには 10 セッション付属しており、オプションライセンスをご購入いただくことで、より多くのセッションをご利用いただけます。

- ・ リモートプローブ

スイートにはリモートプローブを 1 セッション付属しており、オプションライセンスをご購入いただくことで、より多くのセッションをご利用いただけます。

2. AdRem NetCrunch 10 – 必要システム要件

2.1 NetCrunch 10 サーバー

最小システム要件	推奨システム要件
プロセッサ	
Xeon Dual	Xeon Quad 以上
メモリ	
4 GB	8 GB 以上
ディスク	
10 GB - HDD ドライブ	25 GB 以上 - SSD ドライブ
OS	
Windows 2012 R2	Windows 2016

※仮想マシン上にインストールする場合は、4 コアプロセッサと 4GB の物理メモリが最小システム要件となります。

2.2 NetCrunch 10 サーバーのサポート OS

- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

2.3 NetCrunch 10 コンソール

最小システム要件	推奨システム要件
プロセッサ	
Intel Core Solo 1.33 GHz	Intel Core 2 Duo 2.6 GHz 以上
メモリ	
1 GB	2 GB 以上

最小システム要件	推奨システム要件
ディスク	
2 GB	4 GB
ディスプレイ	
1280x1024 True Color	1920x1200 True Color

2.4 NetCrunch 10 コンソールのサポート OS

- Windows 8.1
- Windows 10

2.5 NetCrunch 10 Web アクセス

最小システム要件
ウェブブラウザ
Firefox、Chrome、Microsoft Edge
その他
Adobe Flash Player、HTML 5

2.6 NetCrunch 10 リモートプローブのサポート OS

- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 8.1
- Windows 10

3. AdRem NetCrunch 10 のインストール

3.1 イントロダクション

AdRem NetCrunch サーバーは管理者コンピュータごとにライセンスを必要とします。つまり、1つのライセンスは1つのコンピュータのみにインストールすることができます。同一のライセンスを2つ以上のコンピュータにインストールすることはできません。

3.2 インストールファイルのダウンロード

バージョンアップのお客様および製品パッケージ版の CD-ROM を利用しない場合は、カスタマーポータルからプログラムの最新インストールファイルのダウンロードを行います。

1. カスタマーポータルにログインし、[Downloads]タブを表示します。
2. 保存先パスにローカルマシンのドライブ・フォルダを指定します。[Program Language Version]に[Japanese]を選択し、NetCrunch Server などのプログラムの [Download]をクリックします。

3.3 NetCrunch サーバープログラムのインストール

NetCrunch サーバープログラムのインストール手順:

1. NetCrunch サーバーのインストールには、ローカルディスクに保存したインストールファイル (NC10ServerJP.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールウィザードに従って行います。インストールウィザードを起動し、[次へ]をクリックします。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上 [使用許諾契約の条項に同意します] にチェックし、[次へ]をクリックします。
3. プログラムのインストール先フォルダを指定し、[次へ]をクリックします。
4. データ保管フォルダを指定し、[次へ]をクリックします。

注意:

プログラムインストールフォルダとデータ保管フォルダは、別のフォルダを指定することを推奨しております。同じフォルダを指定した場合、NetCrunch 10 のアンインストール時にデータ保管フォルダもプログラムインストールフォルダと共に削除されます。

5. Web サーバーの設定を行います。Web アクセスを利用時のアクセスポートと OpenSSL の使用について設定します。ポートとオプションを設定の上、[次へ]をクリックします。
6. [インストール]をクリックし、インストールを開始します。
7. インストール完了後、NetCrunch コンソールをすぐに実行する場合は、[コンソールの起動]をチェックします。[完了]をクリックすると、ウィザードを終了します。

8. コンソールを起動すると、Admin のパスワードを設定する画面が表示されます。パスワードを設定の上、[OK]をクリックすると、コンソールを起動できるようになります。

3.4 NetCrunch コンソールプログラムのインストール

コンソールのインストール手順:

1. コンソールのインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC10ConsoleJP.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択します。インストールウィザードを起動し、[次へ]をクリックします。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、“使用許諾契約の条項に同意します”をチェックし、[次へ]をクリックします。
3. インストール先を指定し、[次へ]をクリックします。
4. [インストール]をクリックします。
5. インストール完了後、コンソールをすぐに実行する場合は[コンソールの起動]をチェックし、[完了]をクリックします。
6. コンソールを起動して必要項目を入力し、[OK]をクリックします。
7. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

3.5 NetCrunch リモートプローブのインストール

リモートプローブのインストール手順:

1. コンソールのインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC10RemoteProbe.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択します。インストールウィザードを起動し、[Next]をクリックします。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、“I accept the agreement”をチェックし、[Next]をクリックします。
3. [Install]をクリックします。
4. インストール完了後、設定画面を表示する場合は、[Launch Configurator]をチェックし、[Finish]をクリックします。
5. [NetCrunch Remote Probe Configuration]ウィンドウにて、NetCrunch サーバーの IP アドレスやポートを指定の上、[Connect]をクリックします。
6. [Username]と[Password]に NetCrunch の認証情報を指定の上、[Login]をクリックします。
7. [Probe Name]に任意の名前を入力し、[Register]をクリックします。
※対象の NetCrunch サーバーに既にリモートプローブが存在している場合は、既存のものを選択することもできます。

8. [Close]をクリックします。

リモートプローブのインストール後は、インストール先フォルダ(C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Remote Probe\10.0)にある「NcRemoteProbeConfig.exe」を起動することで、NetCrunch サーバーを指定できます。

4. ライセンスについて

4.1 ライセンスのインストール

NetCrunch をインストールしたのち、正規版として稼動するためには、ライセンスのインストールが必要です。ライセンスのインストール手順は以下になります。

オンラインでライセンスをインストールする方法:

1. NetCrunch サーバーのコンソールを起動し、[?]→[プログラムライセンスのインストール]を選択します。
2. [プログラムライセンスのインストール]ウィンドウにて、[オンライン]を選択します。
3. カスタマーポータル認証情報を入力し、[ログイン]をクリックします。
4. ライセンスを選択します。ライセンスがインストールされると、ライセンスを適用するため、NetCrunch サーバーが再起動します。

オフラインでライセンスをインストールする方法:

1. NetCrunch サーバーのコンソールを起動し、[?]→[プログラムライセンスのインストール]を選択します。
2. [プログラムライセンスのインストール]ウィンドウにて、[ライセンスファイルから]を選択しますと、アクティベーションキーが表示されます。
3. インターネットにアクセス可能なデバイスから、カスタマーポータルにログインします。
4. [ライセンス]タブにて対象のライセンスにある[Activate License]をクリックします。
5. [Activation Key]にアクティベーションキーを入力し、[Activate]をクリックします。
6. [ライセンスファイルをダウンロードする]をクリックします。
7. [ライセンスファイルのインストール]ウィンドウにて、[ライセンスファイルの読み込み]を選択し、ダウンロードしたライセンスファイルを選択して[Load]ボタンをクリックします。ライセンスがインストールされると、ライセンスを適用するため、NetCrunch サーバーが再起動します。

4.2 ライセンスの非アクティブ化

NetCrunch サーバーをリプレイスする場合など、ライセンスの適用場所が変更となる場合には、あらかじめライセンスの非アクティブ化が必要となります。

オンラインでライセンスを非アクティブ化する方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManaegr.exe」を起動します。

※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。

C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\10.0

2. [NetCrunch ライセンスマネージャー]ウィンドウにて、[非アクティブ化]をクリックします。
3. [オンラインで非アクティブ化]を選択します。
4. 確認画面にて[非アクティブ化]をクリックします。ライセンスの非アクティブ化のため、NetCrunch サーバーが再起動します。
5. ウィンドウを閉じます。

オフラインでライセンスを非アクティブ化する方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManaegr.exe」を起動します。

※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。

C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\10.0

2. [NetCrunch ライセンスマネージャー]ウィンドウにて、[非アクティブ化]をクリックします。
3. [オフラインで非アクティブ化]を選択します。
4. [非アクティブ化の確認]ウィンドウにてコードが表示されますので値をメモします。
5. インターネットにアクセス可能なデバイスからカスタマーポータルにログインします。
6. [ライセンス]タブの対象のライセンスに表示されている[Deactivate]をクリックします。
7. [Deactivation Key]ウィンドウにて先にメモしたコードの値を入力し、[Deactivate]をクリックします。

ライセンスを非アクティブ化できない場合:

サーバーの故障などによってライセンスを非アクティブ化できない場合は、以下の情報を記載の上、japan@adremsoft.com までお問い合わせください。製造元での処理が必要となるため、処理が完了するまで時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- エンドユーザーの企業名または団体名
- エンドユーザーの担当者名
- カスタマーポータルに登録しているメールアドレス
- 非アクティブ化したいライセンスのシリアル番号
(「XXX-XXX-XXX」の形式による数字とアルファベットの組み合わせ)

シリアル番号の確認方法については、別紙『カスタマーポータル利用ガイド』をご参照ください。

4.3 ライセンスの更新

NetCrunch は、インストールしたライセンスにあわせて保守期限が適用されます。NetCrunch に適用されている保守期限は、NetCrunch のメインメニュー→[?]→[バージョン情報]にてご確認ください。

保守契約を更新していただきますと、カスタマーポータル上にあるライセンスファイルが更新されます。新しいライセンスファイルを NetCrunch に適用することで、NetCrunch に適用されている保守期限も更新されます

ライセンスの更新手順は、NetCrunch のメインメニュー→[?]→[プログラムライセンスの更新]から行えます。

※ ご利用環境のライセンスをオフラインでインストールいただいている場合には、現在のライセンスをオフラインで非アクティブ化した後、改めてオフラインでカスタマーポータルのライセンスをアクティブ化したファイルをダウンロードいただきインストールください。その後コンソールを起動し、メインメニュー→[監視]→[監視有効]を選択し監視を有効化します。

注意: 非アクティブ化からダウンロードしたファイルをインストールいただき監視の有効化を行うまでの間は監視動作停止した状態となります。

5. AdRem NetCrunch 9 から 10 へのアップグレード

5.1 イントロダクション

NetCrunch 10 では、前バージョン NetCrunch 9 のデータを引き継ぐアップグレード機能が搭載されております。アップグレードについては、製造元、弊社とも十分な検証を実施しておりますが、万一の場合に備えてアップグレード実施前はバックアップデータの取得、NetCrunch 9 の設定の控えをあらかじめ準備していただきますようお願いいたします。また、アップグレード実施後には、NetCrunch 9 との設定比較を実施いただきますようお願いいたします。

NetCrunch 9 を NetCrunch 10 にアップグレードする方法(使用していたアトラスなどのデータを引き継ぐ)には、以下の2つの方法があります。

- ・ NetCrunch 9 を使用しているサーバーマシンに NetCrunch 10 をインストールしてアップグレードする方法
- ・ NetCrunch 9 のバックアップデータを NetCrunch 10 にインポートする方法

前者は、NetCrunch 9 がインストールされた状態のサーバーマシンに NetCrunch 10 をインストールする方法となります。

後者は、すでにサーバーマシンにインストール済みの NetCrunch 10 に対して、NetCrunch 9 のバックアップファイル(.ncb ファイル)をインポートする方法となります。

アップグレード、インポートそれぞれの方法で引き継ぎできる項目が異なります。また、インポートの場合、使用するバックアップファイルによっても引き継ぎできる項目が異なります。アップグレード、インポートによる NetCrunch 10 へのデータの引き継ぎ項目の詳細は、表 1 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表に一覧を記載しています。

なお、NetCrunch 10 での変更点については、リリースノートにてご確認いただけます。

注意:

アップグレード時、再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合には、サーバーの再起動をご試行ください。

注意:

アップグレードおよびインポートは、バージョン 9.3.3.3896 日本語版のみサポートしています。

注意:

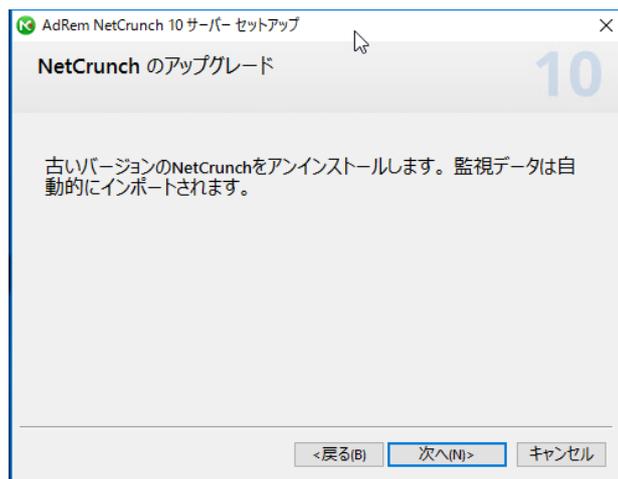
NetCrunch はダウングレード機能を搭載しておりません。そのため、NetCrunch 10 をインストール後、NetCrunch 9 に戻すことはできません。

5.2 アップグレードの手順

NetCrunch サーバープログラムのアップグレードの手順:

アップグレード実施前に、NetCrunch 9 でのアトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムとライセンスのファイルをダウンロードします。
2. NetCrunch 9 を停止します。コネクションブローカーなどが起動している場合は、終了します。
3. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC10ServerJP.exe)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
4. NetCrunch 9 がインストールされている場合は、下記の画面が表示されます。



5. NetCrunch 9 のアンインストールと、NetCrunch 9 から NetCrunch 10 へのアップグレードが行われます。[次へ]をクリックし、ウィザードに従ってインストールを開始します。

注意:

下記の 2 つのフォルダは、使用していた NetCrunch 9 と同一のフォルダをご指定ください。データ保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 9 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 9 のデータ保管フォルダ

注意:

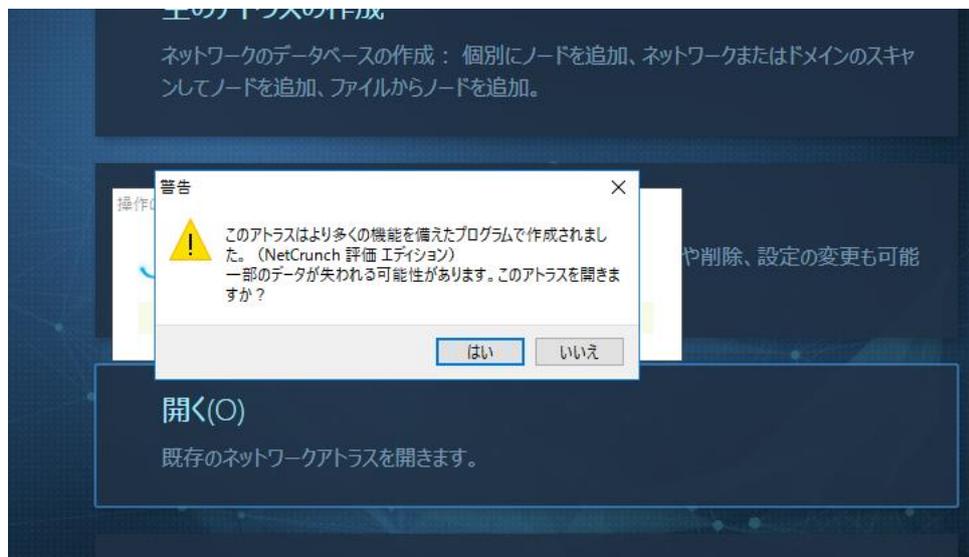
NetCrunch 10 のインストールが開始されると、NetCrunch 9 がアンインストールされます。途中で NetCrunch 10 のインストールをキャンセルしますと、NetCrunch がインストールされていない状態となりますのでご注意ください。

注意:

NetCrunch 10 にアップグレード後、ライセンスをインストールするまで、NetCrunch は一時的に評価版(スイート)にて稼働いたします。評価版ではスイートライセンスの全機能をご利用いただけますが、ライセンスのインストール後はライセンスの持つ機能のみご利用が可能です。レガシーライセンス(Premium または Premium XE)では、一部ご利用いただけない機能がございます。ご利用いただけない機能については、「ライセンス構成」をご参照ください。

また、アップグレード後、レガシーライセンスをインストールした場合、アトラスを開く際に以下の警告が表示されることがございます。

「このアトラスはより多くの機能を備えたプログラムで作成されました。一部のデータが失われる可能性があります。」



アップグレード後、多くの場合は、アトラスが自動的に開かれます。一時的に評価版(スイート)にてアトラスを利用することになるため、レガシーライセンスでアトラスを開く際に上記の警告が表示されます。アップグレード後に評価版にてアトラスの設定変更などを行っていない場合には、アップグレード前のアトラスの状態のままとなっているため、レガシーライセンスにてアトラスを開いても問題ないものと考えられます。

NetCrunch コンソールプログラムのアップグレードの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブローカーを終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル (NC10ConsoleJP.exe) を右クリック→ [管理者として実行] を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
6. コンソールを起動し、必要項目を入力し、“OK” をクリックします。
7. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

5.3 NetCrunch 10 データ引き継ぎ項目

NetCrunch 9 から NetCrunch 10 へのデータ引き継ぎインポート／アップグレードの項目を表に示します。インポートの場合、使用するバックアップファイルによって、引継ぎできる項目が異なります。バックアップファイルを、選択バックアップにて作成した場合は「選」の項目を、フルバックアップにて作成した場合は「フ」の項目をご確認ください。

表 1 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表

(選: インポート(選択バックアップ)、フ: インポート(フルバックアップ)、ア: アップグレード)

	項目	選	フ	ア	補足
1	mib.dat (追加コンパイルした MIB 定義)	×	○	○	-
2	MIB フィルター	×	×	○	-
3	仮想パフォーマンスカウンタ	○	○	○	-
4	監視依存関係	○	○	○	-
5	ユーザープロフィール	×	○	○	-
6	SNMP プロフィール	×	○	○	
7	Web アクセス権	×	○	○	
8	ノードの設定	△	○	○	認証情報を設定している場合、選択バックアップでは引き継ぐことができません。
9	マッププロパティ	○	○	○	-
10	アトラスプロパティ	○	○	○	-
11	SNMP ビュー	×	○	○	-
12	アトラスマップ (各種マップの構成)	○	○	○	-
13	マップレイアウト	○	○	○	マップが<編集済みカスタムマップ>となっている場合は、あらかじめビジュアルマップの共有を設定する必要があります。 マップに<カスタムグループ>を設定している場合は、「レイアウト:<カスタムグループ>」のプルダウンメニューの「名前を付けて保存」からレイアウトを保存する必要があります。
14	イベント定義	○	○	○	-
15	イベントログフィルター	×	×	○	-
16	アクションの定義	○	○	○	-
17	アクション割り当て (メッセージ変換フォーマットの割り当て)	○	○	○	-
18	アラートメッセージ形式	○	○	○	-

19	レポート	○	○	○	-
20	監視データ (イベントログ、トレンドデータ)	○	○	○	選択バックアップの場合、イベントログとトレンドデータをバックアップファイルに含めるか選択できます。
21	アイコン	×	○	○	-
22	デバイスリスト	×	○	○	-
23	トレンドエクスポート	○	○	○	-
24	カスタムネットワークサービス定義	×	○	○	-
25	Open Monitor	△	△	△	<p>Open Monitor の機能は削除されたため、継承の可否は以下のとおりです。</p> <p>ファイル: NetCrunch ノードの監視センサー機能の Data File センサーに継承</p> <p>URL: アトラスに URL と同じ IP アドレスのノードが追加されている場合のみ、そのノードの Data File センサーに継承</p> <p>REST API: 継承なし</p> <p>なお、Data File センサーに設定が引き継がれている場合であっても、イベントやレポートなどは再設定する必要があります。</p>
26	ツール／オプション関連	×	△	○	<p>フルバックアップからのインポートの場合、以下の項目は引き継がれません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般>イベントデータベース ・マップの一般、アイコン、スタイル、アイコン表示以外の各項目

注意:

NetCrunch 9 を Active Directory 環境上にインストールしており、NetCrunch 9 を Active Directory アカウントにて稼働させていた場合、Windows エージェントレス監視の認証が自動で行われております。この場合、NetCrunch 10 へのアップグレード後に Windows エージェントレス監視の認証情報の入力が必要となります。

なお、デフォルトインストールの場合、NetCrunch 9 はローカルシステムアカウントにて稼働しております。また、NetCrunch 10 を Active Directory アカウントにて稼働させたい場合は、インストール後、Windows のサービス一覧にて「AdRem NetCrunch Server」のプロパティから変更できます。

6. AdRem NetCrunch 10 のマイナーバージョンアップ

6.1 イントロダクション

使用している NetCrunch 10 のアンインストールを行い、最新バージョンをインストールすることで、マイナーバージョンアップをすることができます。NetCrunch 10 をアンインストール後もこれまでのデータは残されますので、最新バージョンにデータを引き継ぐことができます。

注意:

NetCrunch 10 のアンインストール時に、プログラムのインストール先フォルダは削除されます。インストール先フォルダとデータ保管フォルダが同じフォルダを使用している場合、NetCrunch 10 のアンインストール時にデータ保管フォルダも削除されるため、データの引き継ぎは行えません。その場合には、アトラスのバックアップファイルをご利用ください。

注意:

最新バージョンにて使用したアトラスは、過去のバージョンでは使用できなくなります。過去のバージョンに戻すことはできませんのでご注意ください。

注意:

マイナーバージョンアップ時、システムが再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。

6.2 マイナーバージョンアップの手順

NetCrunch サーバープログラムのマイナーバージョンアップの手順:

マイナーバージョンアップ実施前に、アトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. NetCrunch コンソールおよびコネクションブローカーを終了します。
3. 現在使用している NetCrunch サーバーを終了します。
※ Windows のスタートメニューなどから[NetCrunch サーバーの停止]をクリックします。
4. ステップ1. にてダウンロードしたインストールファイルを右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
※ すでにインストールされているプログラムは、自動的にアンインストールされます。
5. インストールウィザードに従って、インストールを行います。インストール方法は、「NetCrunch サーバープログラムのインストール」セクションと同様となりますが、下記の2つのフォルダは、使用していた NetCrunch と同一のフォルダをご指定ください。データ

保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 10 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 10 のデータ保管フォルダ

NetCrunch コンソールプログラムのマイナーバージョンアップの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブロッカーを終了します。
4. ステップ1. にてダウンロードしましたインストールファイルを右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
※ すでにインストールされているプログラムは、自動的にアンインストールされます。
5. インストールウィザードに従って、インストールを行います。インストール方法は、「NetCrunch コンソールプログラムのインストール」セクションと同様となりますが、下記のフォルダは、使用していた NetCrunch と同一のフォルダをご指定願います。
 - a. AdRem NetCrunch 10 のインストール先フォルダ

注意:

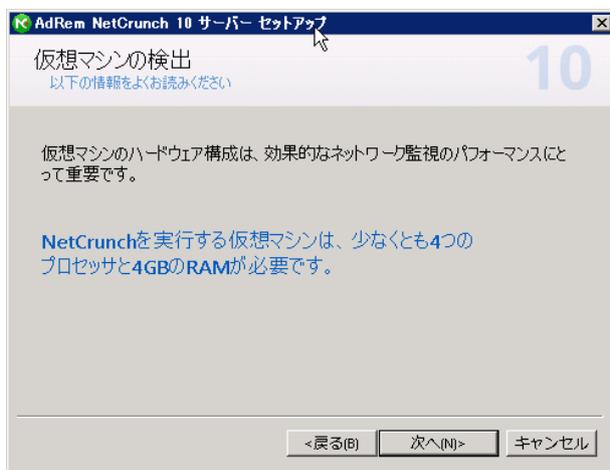
NetCrunch コンソールは、接続先となる NetCrunch サーバーと同一のバージョンをご利用ください。

7. その他

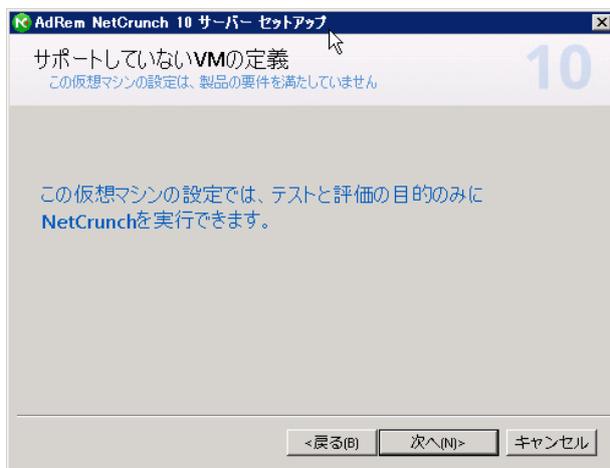
7.1 仮想マシン上へのインストールの注意

NetCrunch サーバーは仮想環境でも問題なく稼働しますが、サーバーとしてのパフォーマンス上の問題がでる可能性があります。仮想マシン上で利用する場合は、少なくとも 4 コアプロセッサと 4GB の物理メモリが必要です。また他の仮想マシンの影響を受けにくい環境で利用するように、ご注意ください。

仮想マシン上へインストールする場合、以下のメッセージが表示されます。



4 コアプロセッサと 4GB の物理メモリを持たない仮想マシンの場合、以下のメッセージが表示されます。最低システム要件に満たない場合、テストと評価の目的のみに NetCrunch を実行できます。



7.2 Admin のパスワードのリセット

コンソールでの接続の際には、ユーザーとパスワードによる認証が必要です。ローカル (NetCrunch 搭載サーバー上) のコンソールの場合は、ユーザーに Admin を使用します。Admin のパスワードが分からない場合、nccli.exe を使用してパスワードのリセットすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。

以下に手順を記載します。

1. NetCrunch 搭載サーバーのコマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行します。
nccli.exe reset-admin-password
2. コンソールを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー名に Admin、パスワードは空欄に設定の上、[OK]をクリックします。
3. [NetCrunch パスワードの変更]ウィンドウにて Admin のパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

7.3 評価版について

NetCrunch のソフトウェア上でライセンスを登録するまでは、評価版として機能します。

正規版と評価版のインストーラソフトウェアは同一のものであるため、ライセンス登録までは一旦評価版としてインストールされます。ライセンス登録により、監視設定や監視データを含めて正規版に移行されます。

注意:

評価版の最初の起動時に関しては、製造元サイトにアクセスできるオンラインでの動作が必要です。オフラインで動作を行う場合、正規版への移行もしくは別途評価版ライセンスが必要です。評価版ライセンスが必要な場合、以下の情報を記載の上、japan@adremsoft.com までお問い合わせください。製造元での処理が必要となるため、処理が完了するまで時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- エンドユーザーの企業名または団体名
- エンドユーザーの担当者名
- 登録しているメールアドレス

8. AdRem Software 使用許諾

本ソフトウェアをご使用になる前に、本使用許諾契約の条項をよくお読みください。

アドレム NetCrunch ソフトウェア・プログラム(以下、「本ソフトウェア」)および付属するライセンス使用許諾契約書)は共に、AdRem Software(以下、「アドレム」)の知的所有物であり、著作権法によって保護されています。

I ライセンス許諾

アドレムはお客様が本使用許諾契約に規定する条件全てに同意することを前提に本ソフトウェアの使用を許諾します。本ソフトウェアの使用に関するライセンス契約はお客様が購入されたライセンス(プログラムライセンス、リモートアクセス・ライセンス)を含みます。

ライセンス使用者は本ソフトウェアが監視するコンピュータネットワークの所有者でなくてはならない。本ライセンスは、他者にサービスを提供するために本ソフトウェアの使用を認可するものではない。ライセンス使用者は本ソフトウェアを使ったネットワーク管理/監視を他者へアウトソーシングすることは可能だが、その場合アドレムの文書による同意が必要となる。他者が本ソフトウェアを使用することに同意することは、該当他者へライセンスを移行し、また、ライセンスを使用することを認可したことにはならない。

本ソフトウェアがNFR(非再販)ライセンスとして提供されたものである場合、使用はデモおよび試験に限定される。NFRとして提供されたライセンスには、アップデート(改訂)、アップグレードもしくはクロスグレードの提供は適用されない。また、バウチャーやクーポンにより購入することも出来ない。

本ソフトウェアが評価版として提供されたものである場合、使用はデモ、試験および評価に限定される。評価版は商業用目的に使用することは出来ない。また再販もしくは移行することも出来ない。

本使用許諾契約に付属した別紙により規定されていない限り、本ソフトウェアの使用に関するお客様の権利および義務は次のとおりです。

許諾事項:

1. NetCrunch サーバーを一台のコンピュータにインストールして使用すること。企業ライセンスを所有している場合、使用者が購入した企業ライセンスに規定されている数よりも多い管理ステーションで NetCrunch サーバーを使うことは出来ない。
2. NetCrunch コンソールを複数のコンピュータにインストールすること。
3. NetCrunch コンソールを同時に使用できるコンピュータは購入したリモートアクセス・ライセンス数以下の数であること。

4. アドレムに対し書面で通知した上で本ソフトウェアを第三者(法人を含む)に永久的に譲渡すること。ただし、お客様が本ソフトウェアのコピーを保有せず、譲受人が本使用許諾契約に同意した場合に限ります。

禁止事項:

1. 本ソフトウェアの一部または全部を問わず、譲渡、貸与、またはリースをすること。
2. リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳、本ソフトウェアのソースコードを発見しようとするいかなる試み、本ソフトウェアからの模倣的製品の作成。
3. お客様が本ソフトウェアをアップグレードしたのちに、従前のバージョンを使用すること。ただしユーザーが選択した慈善団体へ従来のバージョンを寄付する場合は例外とする。これをアドレムが認めるためには、寄付の受益側が譲渡された本ソフトウェアのエンドユーザーである旨を表明する文書を、ユーザーがアドレムへ提出する必要がある。これ以外の場合、従前のバージョンのコピーはすべて破棄するものとする。

II 技術サポート

技術サポートはメンテナンス・サービスに契約されている本ソフトウェアを持つユーザーに与えられます。提供される技術サポートは次のとおりです。

1. 最新バージョンのサポート
2. 保守契約有効期間内の本ソフトウェアの使用方法に関する内容について、電話、電子メールでの質問、相談
3. 保守契約有効期間内にアドレムが提供する本ソフトウェアの最新バージョンへのアップグレード

アドレムは本ソフトウェアに関する技術サービスをお客様に提供するものとします。ただし、アドレムが可能な範囲でこのサービスを提供する権利を留保します。特に、各問題に対してサポートサービスの範囲内で解決方法を提供することを保証するものではありません。

アドレムが技術サポートを提供するのは、本ソフトウェアが開発されたオペレーティングシステムの制御下、条件に基づいて使用された場合にのみとする。

III 責任の制限

アドレムは、お客様の要求を満たすこと、本ソフトウェアが瑕疵なく、また途切れることなく作動するという事を保証するものではない。いかなる場合でも、アドレムは、本ソフトウェアを使用したことから発生する、もしくは本ソフトウェアが使用できない事から発生する損失および利益逸失もしくは偶

発的、間接的な損失を含む損害に対し責任を持つことはない。これは、アドレムもしくはアドレムが認可した代理店が損害の可能性に関して通知されていた場合でも同様である。

法律が合意範囲の責任の制限もしくは排除を予見しない国においては、アドレムの責任は、該当国の法律により認められた最大範囲での責任の制限、もしくは排除を適用するものとする。

本ソフトウェアは、危険な環境においてもフェールセーフなパフォーマンスが要求される原子力施設、航空機の飛行、通信、コントロール・システム、生命保持機器、兵器システムにおけるオンライン管理システム、もしくは、本ソフトウェアに発生し得る障害が死や怪我もしくは深刻な物理的もしくは環境上の障害を引き起こす可能性のあるシステムを対象とした使用もしくは配布を想定して設計されたものでも、製造されたものでもありません。

IV その他

上記の条件は、アドレムがお客様へ与えたその他の権利を制限、除外しません。本使用許諾契約は本契約書の別紙もしくは、お客様とアドレムが署名した書面によってのみ修正することができます。本使用許諾契約の各項が違法、無効、法的拘束力がない場合、各項目は本契約から除外するものとみなします。ただし、残りの項目の正当性と履行に影響がないものとします。本使用許諾契約に関するご質問は、sales@adremsoft.com までお問い合わせください。